

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

| | | |
|--------|-------|------------------|
| 城北中学校区 | 校番 63 | 福山市立明王台小学校 |
| 最終更新日 | | 2026年(令和8年) 4月1日 |

I 福山市

| | |
|------|---------------------------------|
| めざす姿 | すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現 |
|------|---------------------------------|

II 中学校区

| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <p>前年度の学校関係者評価報告書は「十分満足できる」と評価された項目が多かった。中学校校区で連携を深め、いろいろな取組で成果をあげている。各校の目標未達成の取組については現状をしっかりと把握し、達成に向けPDCA サイクルに則り実践する。</p> | <p>児童生徒の現状</p> <p>前年度の全国学力学習状況調査の結果では、国語・数学(・理科)の平均正答率が市平均をどの学校でも上回ることができた。ただ、正答率40%未満の生徒は一定数おり、課題である。また、不登校の児童生徒も多い現状がある。</p> | <p>育成する資質・能力</p> <p>めざすこども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p> | <p>主体的に判断する力・課題を発見し解決する力・地域社会と協働し貢献する力</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に考え、判断し、自律して行動する児童生徒 豊かな心を持ち、お互いを尊重し、協働する児童生徒 授業研究及び教科等部会の取組 家庭学習とメディア利用の取組 地域協働と地域交流の取組 |
|--|--|--|--|

III 自校

| | | | | |
|---|--|--|---|--|
| <p>学校教育目標</p> <p>自ら学び 豊かな心で たくましく生きるこどもの育成</p> | | | | |
| <p>現 状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査において、正答率 40%未満の児童の割合が、国語 8%、算数 12%、理科 12%であった。福山市学力定着状況調査については、正答率 40%未満の児童は、国語科 6.9%、算数科 5.8%であった。自分の考えを書いて表現することに課題がある。 3学期に実施したメディアコントロールウィークの結果、平日のメディア使用時間を 2 時間以内にできた児童は 76.1%であった。 全ての学年が地域と連携したり、地域のためにできることを考え実行したりする活動を行い、「地域の人に支えられている」と感じる児童は 98%だった。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の課題を分析し、指導の際に前学年までの学習を振り返って学習を進めることで、学習意欲が増した。 DC教育を参観日等で行い、保護者と児童両者に実態を把握してもらい、意識を高めた。 総合的な学習・生活科において、地域と関わる取り組みを全学年で実施した。 | | | | |
| めざすこども像 | 低学年 | 友達と自分の考えを交流し合い、比較したりつなげたりしてよりよい解決法を見つける。 | 自分の身の回りの課題を見つけ、友達と話し合い協力して解決しようとする。 | 地域の人・もの・ことに関わることを通して、地域のよさを伝えることができる。 |
| | 高学年 | 互いの考えを認め合い、比較・分類・関連付けたりしながら自己決定している。 | 身の回りの課題を設定し、友達と協力したり、目的や意図に応じて必要な情報を整理したりしてよりよい解決に向けて考えている。 | 地域の人・もの・ことに関わる活動を通して、地域のよさを伝えたり、地域の一員として自ら関わったりしている。 |
| 研究 | テーマ | 根拠や理由を明確にして自分の考えを表現する児童の育成 ～多様な表現の場の設定を通して～ | | |
| | 内容等 | 問題解決型の授業研究の実践を年間を通して行う(プロジェクト活動型) | | |
| めざす授業の姿 | <ul style="list-style-type: none"> ○思考・表現を促す活動の充実 ・学びの過程(①課題提示②根拠・理由を集める③整理・分析④伝え合う⑤振り返り)を意識した授業・単元づくり ○基礎的・基本的な学力の定着 ・当該学年の学習内容について付ける力を明確にし、目的を児童と共有した反復練習 ・家庭学習の質の向上・読書時間の確保 | | | |

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

| 年 目 | 中期経営目標 | 重 点 | 分 類 | 短期経営目標 | 目標達成に 向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | | 最終評価(2月末) | | | |
|--------|---|--------|--------|---|--|--|----------------|------------|----------|------|--|------------|----------|----------|
| | | | | | | | □指標に係る 取組状況 | プロセス 評価 | 達成 評価 | 改善方策 | □指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況 | プロセス 評価 | 達成 評価 | 総合 評価 |
| 6 | 自ら考え学ぶ 児童(主体 性)の育成 | ★ | 継 続 | じっくり考え、自分 の言葉で表現する 力、基礎学力の定 着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ペアやグループ で自分の考えを 自信をもって発 表する場の設定 をし、学びを広げ 深める授業づくり を進める。 基礎的、基本的な 学力の定着のた めに、反復練習 を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 「自分の考えがうまく 伝わるよう、資料や文 章、話の組み立てな どを工夫して発表し た」児童を85%以上 にする。(児童アンケ ート) 福山市学力定着状 況調査において、正 答率40%未満の児 童を6%以下にする。 | | | | | | | | |
| 2 | 自ら進んで健康 的な生活をしようとする児童の 育成 | | 継 続 | メディア使用時間を 自分の意志でコント ロールし、生活リズム を整え、健康的な生 活をしようとする態度 を育む。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎学期メディアコン trolウィークを 実施し、起床時刻・ 就寝時刻・メディア 使用時間について 生活習慣を振り返 る機会をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> 平日のメディア使用 時間が2時間以内の 児童を80%以上に する。 | | | | | | | | |
| 2 | 地域とともに ある学校づくり | | 継 続 | 地域の人やボラン ティアの人への感謝の 気持ちをもって行動 することができる児 童を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の人やボラン ティアの人と関わりな がら学習を進め、地 域とのかかわりを 深める単元の充 実・改善を図り実施 する。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の人のために行 動したいと考える児 童の割合を85%以上 にする。(児童アンケ ート) 各学年、学期に1回 以上地域と関わる学 習を実施する。 | | | | | | | | |
| 1 | こどもたちの 成長のために 教職員が、生 き生きと働くこ とができる職 場環境づくり | | 新 規 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員の指導力向 上に向けた協働体 制づくりを行う。 教職員の意見を取 り入れて業務改善 を図り、教職員が 生き生きと働ける 環境整備をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> 教材研究日を中心 に、学年を超えたグ ループで取組を共 有したり協働したり する。 元気に働けるよう、 定時退校日を週2 回設定する期間 (成績時期繁忙期 以外)を計画的に 設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> 仕事にやりがいを感じ ている教員の割合 を85%以上にする。 月の時間外在校時間 の平均を30時間以内 にする。 | | | | | | | | |

[プロセス評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 |
|----|--|
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 |

[達成評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 |
|----|------------------------|
| 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 |
| 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 |
| 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 |
| 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 |
| 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 |

[総合評価の評価基準]

| 評点 | 評価基準 | |
|----|-----------------|-----------------|
| 5 | 100%以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 60%以上80%未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |